

第5章
一緒にいたい気持ちを予測する
—重回帰分析—

2017.12.15 清水裕士・荘島宏二郎

目的

- 重回帰分析の実行
- データはv03c5commitment.savを使用

本稿は
第1巻SPSS資料を
既知として
解説しています

表5-2の分析

表5-2 重回帰分析 1/3

分析→回帰→線型

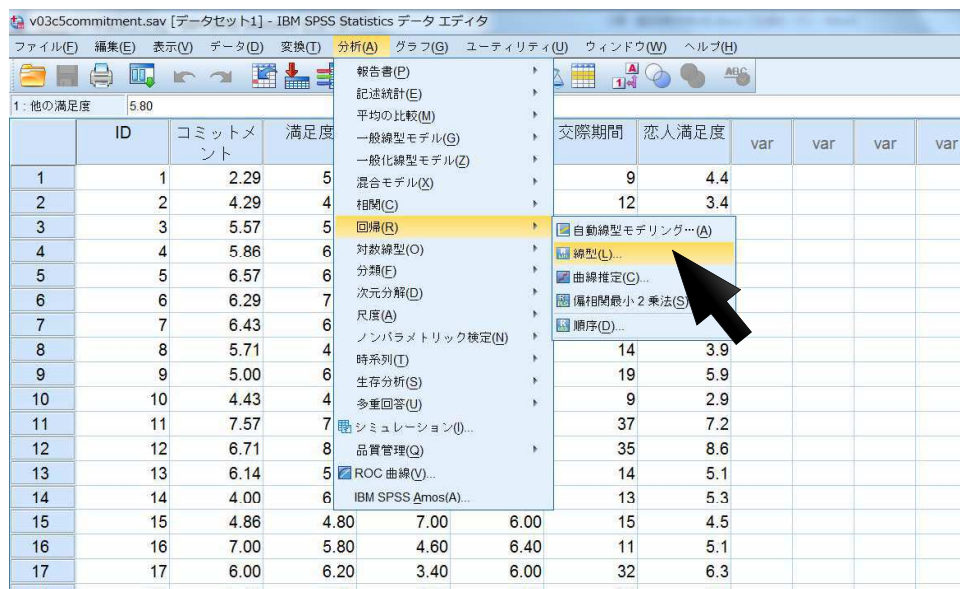


表5-2 重回帰分析 1/3

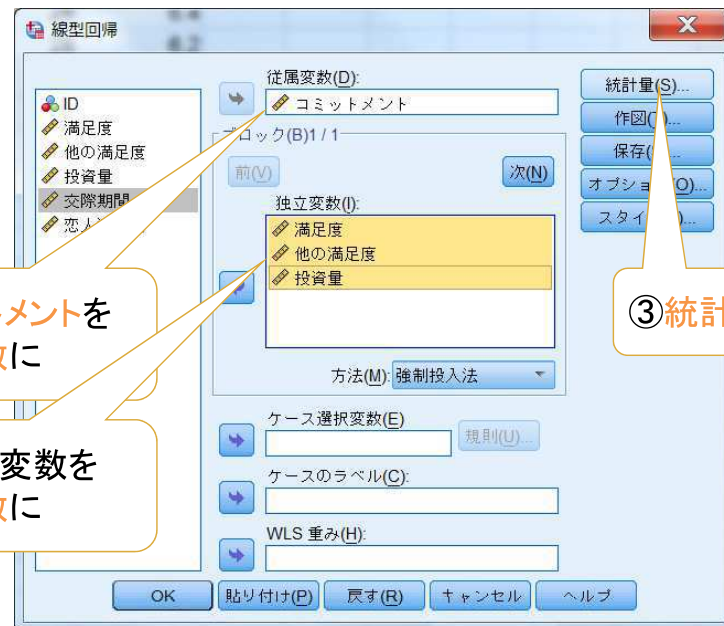
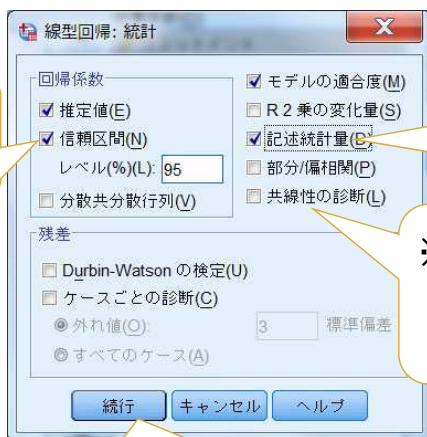


表5-2 重回帰分析 1/3



①信頼区間に☑

②記述統計量に☑

※共線性の診断に☑を入れるとVIFが出力される

③続行前の画面に戻るのでOK

出力:表5-2と決定係数

モデル	標準化されていない係数		標準化	t	有意確率	B の 95.0% 信頼区間	
	B	標準誤差	ベータ			下限	上限
1 (定数)	.408	1.227		.332	.740	-2.028	2.843
満足度	.445	.104	.402	4.267	.000	.238	.652
他の満足度	-.135	.071	-.162	-1.909	.059	-.276	.005
投資量	.513	.187	.249	2.743	.007	.142	.885

モデルの要約				
モデル	R	R ² 乗 (決定係数)	調整済 R ² 乗 (調整済決定係数)	推定値の標準誤差
1	.655 ^a	.429	.411	1.07298

表5-3の分析

表5-3 重回帰分析 1/2

分析→回帰→線型

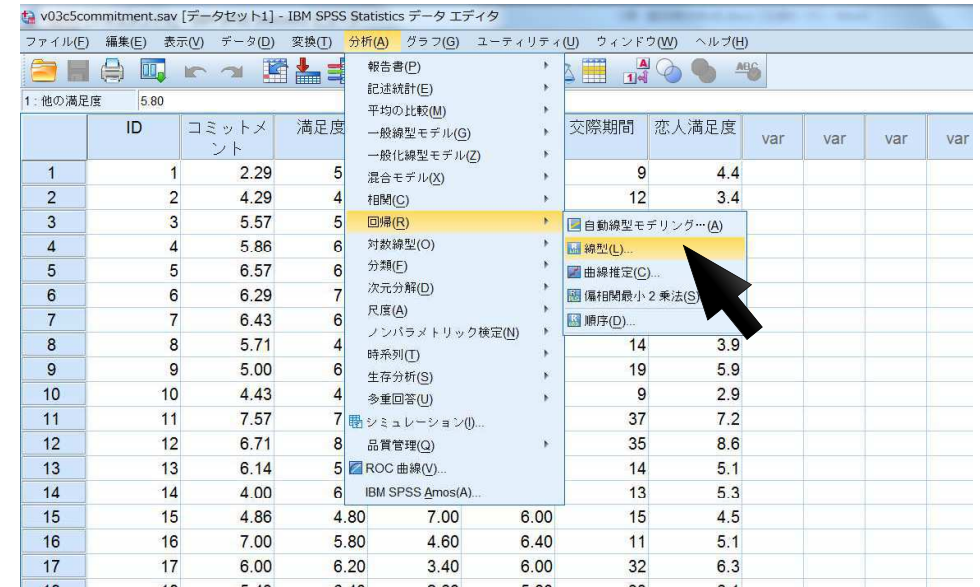
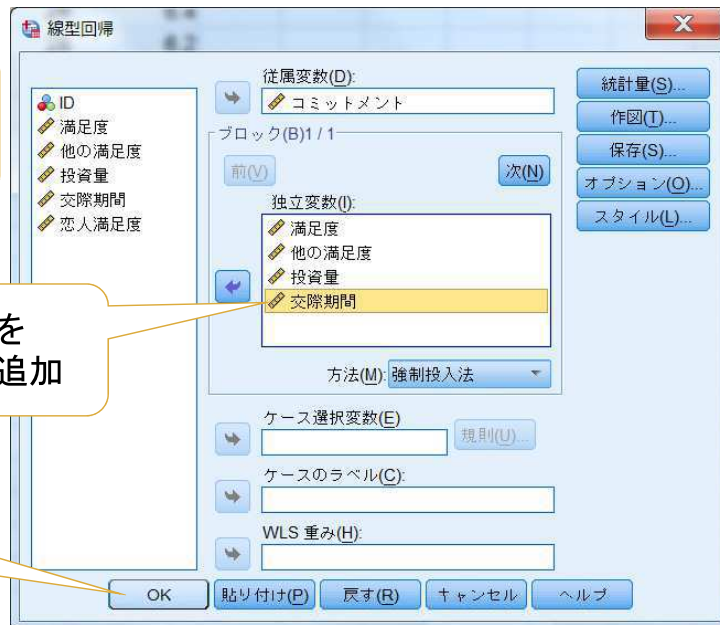


表5-3 重回帰分析 2/2

前の分析の設定が残っているので微修正するだけ

①交際期間を独立変数に追加

②OK



出力: 表5-3と決定係数

モデル	係数 ^a						
	標準化されていない係数	標準化係数	t	有意確率	B の 95.0% 信頼区間		
	B	標準誤差	ベータ		下限	上限	
1 (定数)	.388	1.231		.315	.753	-2.057 2.833	
満足度	.432	.107	.390	4.048	.000	.220 .644	
他の満足度	-.136	.071	-.163	-1.916	.058	-.277 .005	
投資量	.505	.188	.245	2.684	.009	.132 .879	
交際期間	.007	.012	.051	.630	.530	-.016 .031	

モデルの要約				
モデル	R	R ² 乗 (決定係数)	調整済 R ² 乗 (調整済決定係数)	推定値の標準誤差
1	.657 ^a	.431	.407	1.07637

表5-7の分析

表5-7 重回帰分析 1/2

分析→回帰→線型

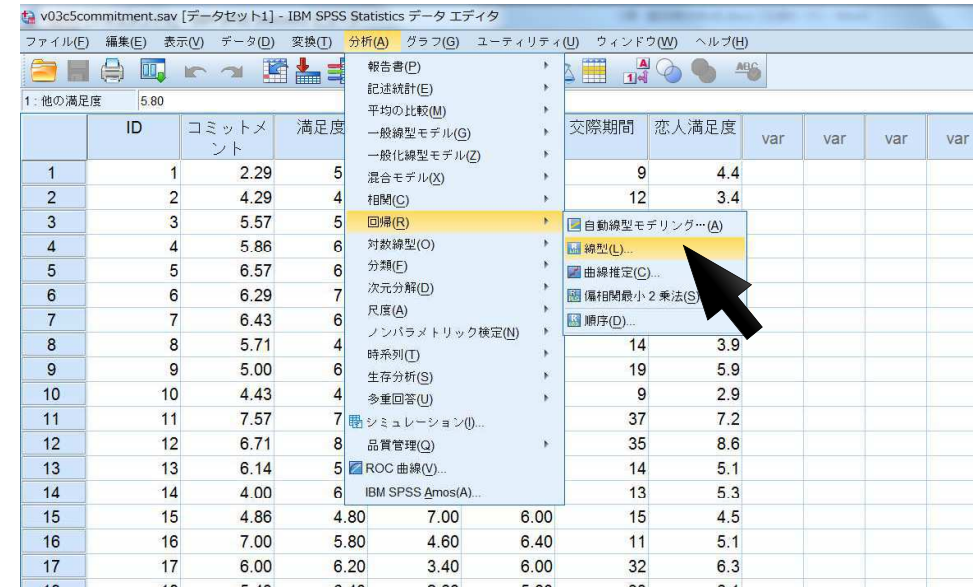
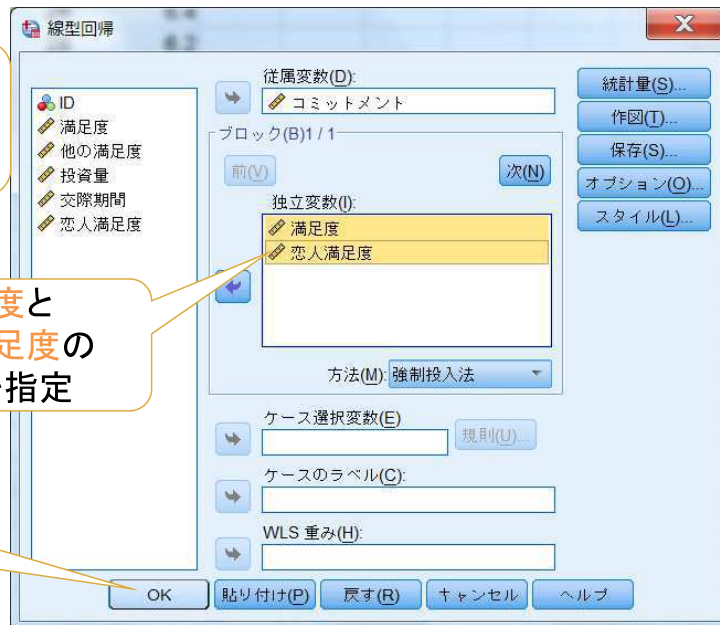


表5-7 重回帰分析 2/2

前の分析の設定が残っているので微修正するだけ

①満足度と恋人満足度の2変数を指定

②OK



出力: 表5-7と決定係数

モデル	標準化されていない係数		標準化係数	t	有意確率	B の 95.0% 信頼区間	
	B	標準誤差	ベータ			下限	上限
1 (定数)	1.702	.770		2.209	.029	.173	3.231
満足度	.704	.443	.636	1.592	.115	-.174	1.583
恋人満足度	-.040	.374	-.043	-.107	.915	-.783	.703

モデルの要約				
モデル	R	R ² 乗 (決定係数)	調整済 R ² 乗 (調整済決定係数)	推定値の標準誤差
1	.594 ^a	.353	.340	1.13575